

グラビア	地域を支える人 城下嘉和さん 井藤楓恋さん・兵庫県	1
発掘!地域の希望のタネ	〈琉球緋・南風原花織〉 沖縄県南風原町	5
給食のじかん	〈ふく鍋〉 山口県下関市	天野美津江 6
書評	鮫島 浩 著『朝日新聞政治部』	菅原敏夫 8
焦点	杉並区の住民参加型予算がもたらすもの	兼村高文 10

特集

## どうなる? 2024年度自治体財政

解説	2年連続で110兆円超 いまだ「平時」に戻ったとは言えない予算	財政問題研究会 16
解説	2024年度地方財政計画と地方財政 —財源保障の新展開	飛田博史 26
	少子化対策における財源確保策の問題点	西沢和彦 41
	財政規律と金融政策の正常化にむけて	福田慎一 50
インタビュー	森林環境税の徴収がスタート 自治体が描く林業の未来と地域のビジョン	佐藤宣子 58

地域おこし 協力隊が行く!	第9回 島根編②津和野町 地域の人びとの繋がりに観光を仕事に	舟山宏輝 67
自治研活動 レポート	コロナ禍後、初の山梨県自治研集会を開催 —山梨県本部	後藤真彦 74
結びつなげる! しまね自治研	自治労島根県本部の自治研活動 ～組織活力の向上および人材育成にむけて～	大崎康弘 76

自治研センターの機関誌案内	79
次号予告・編集部から	80



「朝日新聞政治部」

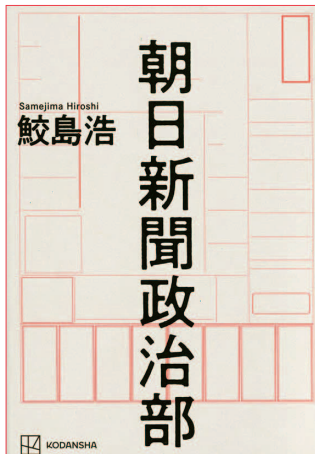
講談社、一九八〇年

鮫島 浩 著

調査報道

SNS界隈ではマスコミ批判(叩き)は常に人気のトレンドだ。マスコミは第四の権力と呼ばれることもある。この権力への監視も怠れない。

書評子は「調査報道」こそマスコミの責務とも感じている。一昨年の三月号本欄では諸永裕司『消された水汚染』、同じく九月号では日野行介『原発再稼働』を紹介している。それぞれ、朝日新聞、毎日



新聞の調査報道でスクープを放った。日野は最近「情報公開が社会を変える」調査報道記者の公文書道(ちくま新書)を書いた。情報公開の使い方を丁寧に説いた本でお薦めだ。

しかし、取材には極度の緊張、危険が伴う。権力の「秘密」の周りにはいくつもの罠が仕掛けられている。

吉田調書

本書の著者鮫島は朝日新聞政治部の記者。調査報道に専従する特別報道部のデスク(次長)の時に「吉田調書」スクープを出稿した(一四年五月二〇日)。「吉田調書」とは、一一年三月福島第一原発吉田昌郎所長への、政府事故調による聴取の記録。四〇〇ページにも及ぶ。

政府事故調は隠した。それが何らかの経緯で朝日の記者の手に。反響は大きかった。原発が当時どれほど危険な状態にあったかも明らかになった。それゆえネ

ットメディアの反発も激しく、政権に復帰した自民党の反撃は過激だった。

朝日新聞はこうした圧力に屈し記事を撤回消した。最悪の結果だったが、吉田調書の情報源は今もって秘匿されている。唯一の救いだ。

ウェブメディアへ

本書でのこの事件の顛末は最後のちよつとだ。メインは朝日新聞政治記者の、「権力としっかり付き合う」様子に充てられている。政治家は実名で登場する。その間合いの危うさが本書の特徴。

朝日新聞を辞めた著者はすぐに自身のウェブメディアASAMEJIMA TIMESを立ち上げた。独自の方法で政治家に密着し、権力を監視しているのだから。最近覗いてみたら、岸田下ろしの果てに「解散総選挙、四月二八日投票票」と出ていた。この予想当たるか。

評者 菅原敏夫 本誌編集委員